

## 背景と目的

夢見ヶ崎動物公園（以下、「夢見」という。）は、**昭和25（1950）年開園**、昭和47（1972）年に動物の飼育・展示を開始した、広場、動物、植物、古墳などの歴史資源を有する地区公園です。

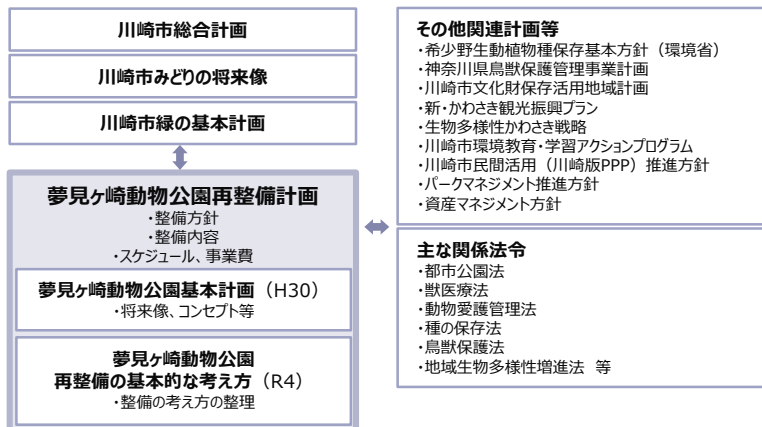
平成30（2018）年3月に「夢見ヶ崎動物公園基本計画」を定めました。その後の様々な社会変容を受け、**令和4（2022）年8月に「夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方」**を定めて再整備の内容を見直し、**市民の意見聴取、民間事業者との対話を重ね、令和6（2024）年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子」**を決定しました。

本計画は、これを踏襲しながら、**動物公園としての役割を改めて見直し**、施設の配置や、より具体的な整備内容、**中長期的な視点も踏まえた事業推進や管理運営の手法などについて示**しています。

## 計画の位置付け

### ■ 上位関連計画

本計画は関連計画・法令との整合を図りながら策定します。



## 対象区域

本計画は、民有地などを除く、**夢見全体**を対象区域（**6.6ha**）とします。



## 計画期間

再整備計画の対象期間は、計画策定から**概ね10年**としますが、飼育動物の寿命などを鑑み柔軟に対応する必要があります。

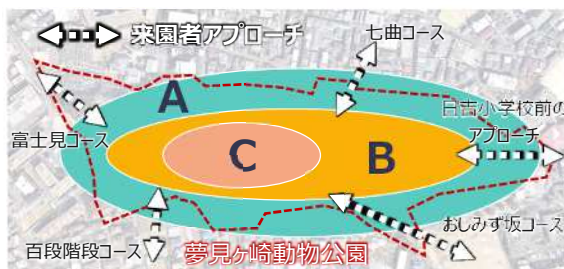
## 現況・周辺状況

### 夢見の立地特性・概況

標高35mの丘陵地(加瀬山)に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のような姿で、**里山樹林・公園・動物園の3つのエリアで構成され、多様な特性を有**しています。**市内で唯一の動物公園**であるとともに、古墳など歴史資源を有し、お花見・散策・遠足・地域の行事など四季を通じて幅広く利用されています。



- ・標高35mの丘陵地
- ・まとまった緑
- ・市内唯一の動物公園
- ・鳥獣保護区に指定
- ・四季折々の自然
- ・富士見デッキからの眺望
- ・幸区市民健康の森に指定
- ・古墳、戦没者慰霊塔など歴史資源
- ・敷地内の社寺などと共存



- 里山樹林エリア**
- A** 加瀬山の豊かな樹林地 など
- 公園エリア**
- B** 加瀬山上部の平坦部 交流・レクリエーション・散歩 など
- 動物園エリア**
- C** 動物と出会う空間

### 概要

所在地 : 幸区南加瀬1-2-1  
 公園面積 : 6.6ha  
 公園種別 : 地区公園  
 開園日 : 昭和25(1950)年4月1日  
 動物展示開始 : 昭和47(1972)年11月22日  
 展示動物 : 51種282点(令和8年3月末時点)  
 入園料 : 無料

### 連携協働の取組

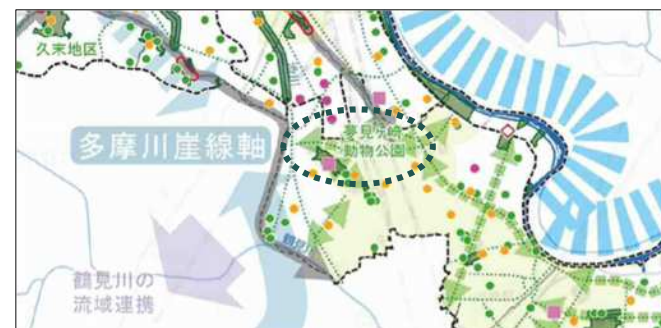
サポーターやボランティアの方々、教育機関など多様な主体と連携した取組を行っており、活動のフィールドとして利用しています。



多様な主体との連携協働 教育機関などとの連携

### 生物多様性かわさき戦略での位置付け

市街地・臨海部エリアにおける**回廊(コリドー)**における**拠点(コア)**であり、**生物多様性に関する情報の収集・発信拠点**としての役割も担っています。



- 凡例
- 生態系エリア
- 河川・運河等
- 街路樹及び主な緑道
- 重点的に緑化を推進する地区 (緑化推進重点地区)
- 流域生態系エリアにおける回廊(コリドー)
- 市街地・臨海部エリアにおける回廊(コリドー)
- 人と生き物をつなげる場づくり (小学校)
- 人と生き物をつなげる場づくり (緑の活動拠体の活動拠点 (公園、特別緑地保全地区等))
- 人と生き物をつなげる場づくり (みどりの事業所)
- コア
- 基拠点
- 生物多様性に関する情報の収集・発信拠点



来園者数・収支状況

ピーク時(昭和63(1988)年)の来園者数は60万人を超えていましたが、近年は10~20万人程度で推移しています。春(3~5月)及び秋(9~11月)に来園者数が増加する傾向にあります。



園内に社寺などの民有地や5箇所の出入り口があり、動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯があります。過去5年間(令和2(2020)年度~令和6(2024)年度)の平均収入額は一時使用料などにより約16万4千円であり、また、支出額は人件費、飼料、維持・修繕などにより約1億9千5百万円となっています。

夢見ヶ崎動物公園の課題

公園施設の老朽化に加え周辺環境の変化や社会変容による市民ニーズの変化、気候変動への対応が必要となっています。

● 社会変容による市民ニーズ等の変化

新型コロナウイルス感染症による影響、オープンスペースの多様な利活用ニーズの高まり、アニマルウェルフェア※に対する意識の高まりなど

● 施設の老朽化や不足による課題(部分的に先行整備を実施)

園内のバリアフリー化の不足/動物展示の魅力低下/アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の整備が不十分/駐輪場や駐車場の検討不足 など

● サービス面の課題

※アニマルウェルフェア:飼育および展示における個々の動物の身体的および心理的状態のことをいう。

「教育・環境教育」「レクリエーション」に関する公益的なサービスの不足/地域との協働のポテンシャルを活かしたイベントやプログラムの不足/加瀬山の様々な文化財の保存、活用と魅力発信事業の不足

● 持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

コレクションプラン等の充実が必要/飼育のノウハウの継承が不十分/持続可能な管理運営のための財源確保の課題など



先行整備したパークセンター

動物舎の老朽化

再整備の基本的な考え方

「いのちを感じる」夢見ヶ崎動物公園

夢見は目指すべき将来像「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」を踏まえ、市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう再整備を実施します。

平成30(2018)年 夢見ヶ崎動物公園基本計画 「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」

令和4(2022)年 夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方

令和5(2023)年~令和6(2024)年 夢見ヶ崎動物公園再整備骨子 「いのちを守る」「いのちの体感」「いのちへの共感」



- 地球環境を大切にす行動へつながる
- 自然や環境を自分ごととして考えるきっかけ
- 自分や他者を大切にす気持ちを育てる

加瀬山に存在する自然・歴史・動物の多彩ないのちを加瀬山全体として体感できる施設整備と運営管理を実現

再整備により "都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場" としての動物公園を創造します。

基本方針① 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と人の営みを体感できる

基本方針② 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる

基本方針③ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

加瀬山が持つ、ここにしかない「いのちを感じる」資源のエリアごとの整理

基本方針① 里山樹林エリア



- 土地の記憶から自然の営みを実感
- 樹林に暮らす動物・鳥類・昆虫
- 生きものとの共存を考える機会
- 身近な鳥獣保護区が住民の誇りにつながる

基本方針② 公園エリア



- 世代の異なる人々との関わり
- 健康づくりや生きがい創出
- 伝統や文化など人の営みを実感
- 歴史と平和の大切さを伝える

基本方針③ 動物園エリア



- 気軽に飼育員さん、園長さんに出会える環境
- 動物のリハビリを知り、関われる
- 都市の中で、様々な動物と出会える
- いつでも、何度でも、ゆっくり、じっくりいのちと向き合える



## 再整備の基本的な考え方

3つの基本方針に基づき、**五感を使った「いのちを感じる」プログラムを展開しやすい環境**をつくります。

### 基本方針① 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と人の営みを体感できる

#### 里山樹林エリア

いのちを育む加瀬山の緑に親しむ



協働による樹林管理活動 発生材を活用した解説板  
整備イメージ

- ・市民協働による樹林地管理の活動を支える施設や休憩場所を設置
- ・日常的な散歩・散策で自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものと出会える**安全管理や地域の憩いの空間づくり**
- ・活動で発生した自然資源を活用し、**樹林に息づく生きものや取組を紹介できる解説板**

### 基本方針② 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる

#### 公園エリア

いのちを大切にしている行動につながる



パークセンターの地域活用 子ども達が集う遊具  
整備イメージ

- ・来園者や動物が公園内を**安全に散歩できる園路、夏の暑熱環境に対応した休憩所などの施設整備**
- ・**顔となる遊具などを中心として自然と人が集まってくる柔軟な遊びの空間**
- ・**市民や企業からの意見や寄付を反映した施設整備**
- ・広場やパークセンターは**夢見の取組の発信や地域との関わりづくりなどに活用**が可能な空間とする

### 基本方針③ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

#### 動物園エリア

いのちの鼓動に心が動く



いのちを伝えるサインの工夫 いのちを守る取組を身近に感じる施設  
整備イメージ

- ・触るだけではない「ふれあい」を提供する、**アニマルウェルフェアを遵守した動物展示、動物や生息環境の情報発信の充実**
- ・バックヤードの整備や暑熱対策など、**働く環境の充実**
- ・ゆっくり観察ができ、**居心地よく利便性のある空間づくり**
- ・調理場やリハビリ施設の一部を見学できる、**いのちを守る取組を身近に感じる施設を設置**

### ■「いのちを感じる」プログラムの例

**加瀬山の自然を五感で感じる**

自然の心地良さを五感で感じ、自然の大切さ、保全の重要性を学ぶ

**樹林ボランティア(夢見)**

みる きく かが 味 ふれる

---

**加瀬山のいのちの歩みとは？**

今いる生きもの、昔いた生きものなどを知り、歴史と自然にふれる

**昆虫教室(広島緑化センター)**

みる きく ふれる

**動物の得意！を披露 見て・聴いて驚き、感動する**

みる きく

・人と関りが深いロバが人と一緒に歩く様子を観察

・鳥の羽や羽ばたきを観察

・動物を観察し、動きや習性に驚き、学ぶ

**ロバの散歩(京都市動物園)**

**バードショー(松江フォーゲルパーク)**

みる きく

**食べることは生きること！**

みる かが 味

・エサの準備のお手伝い

・食べ物やうんちの違いからいのちを感じる

**エサづくり体験(市川市動植物園)**

---

**いのちを守る最前線を見学**

みる

・野生保護鳥獣の観察

・職場見学

・自分にできることを考える

**保護鳥獣の観察(猛禽類医学研究所)**



全体の空間構成と施設配置計画

現状の空間構成を活かすことで、樹林など環境への負担や造成など整備の負担を軽減します。

■ 第1～5期 段階整備の計画



里山樹林エリア

緑と人が出会う

樹林や地域の生きものを観察・実感できる

【再整備を検討する主な施設】

- ① 樹林管理の拠点
- ② 階段・散策路
- ③ 児童公園
- ④ 駐車場



里山体験教室のイメージ

公園エリア

人と人が出会う

家族と、友人と、地域の人と交流する

【再整備を検討する主な施設】

- ⑤ 「う回路」入口・パークセンター南側
- ⑥ 駐車場からの入口
- ⑦ 展望広場
- ⑧ エントランスのロータリー
- ⑨ 慰霊塔付近
- ⑩ 芝生広場
- ⑪ 慰霊塔前広場



遊具配置のイメージ



**植栽**

- ・既存の緑陰を活かしながら剪定を実施
- ・施設や公園利用の支障となる樹木を適切な位置に更新
- ・樹林管理活動で出た発生材の有効活用の検討

**動線**

- ・通過、散策と“たまり場”のバランスに配慮
- ・安全に楽しみながら歩ける舗装の整備
- ・災害時などにおける緊急車両、避難経路などに配慮した舗装、サイン整備

**公園全体**

- ・園内に散在する歴史的資源や加瀬山の自然の保全
- ・各所に動物・昆虫などのイラスト、樹林管理の発生材を活用した作品などを設置

発生材アート作品 (吉野ヶ里遺跡)

**⑥ 憩いの拠点**

- ・富士山、街の眺望
- ・シンボリックなデザインの上イレやゲート、休みたくなる休憩施設



富士見デッキの眺望 (夢見)

**動物園エリア**

生きものと人が出会う

動物園の動物たちと出会い・学び・楽しみ・驚く

【再整備を検討する主な施設】

- ⑫ 広場、動物展示、動物病院、調理場、隔離室など



動物病院イメージ



動物舎イメージ

**⑩ 交流の拠点**

ワクワク感を演出するサイン、公園エリアから動物園エリアへの誘導サインや案内板



動物モチーフのサイン (のんほいぱーく)



エントランスの演出 (盛岡市動物公園)

**⑪ にぎわいの拠点**

遊びやイベントなどの利便性向上のための園路や休憩施設



キッチンカーの出店 (夢見)



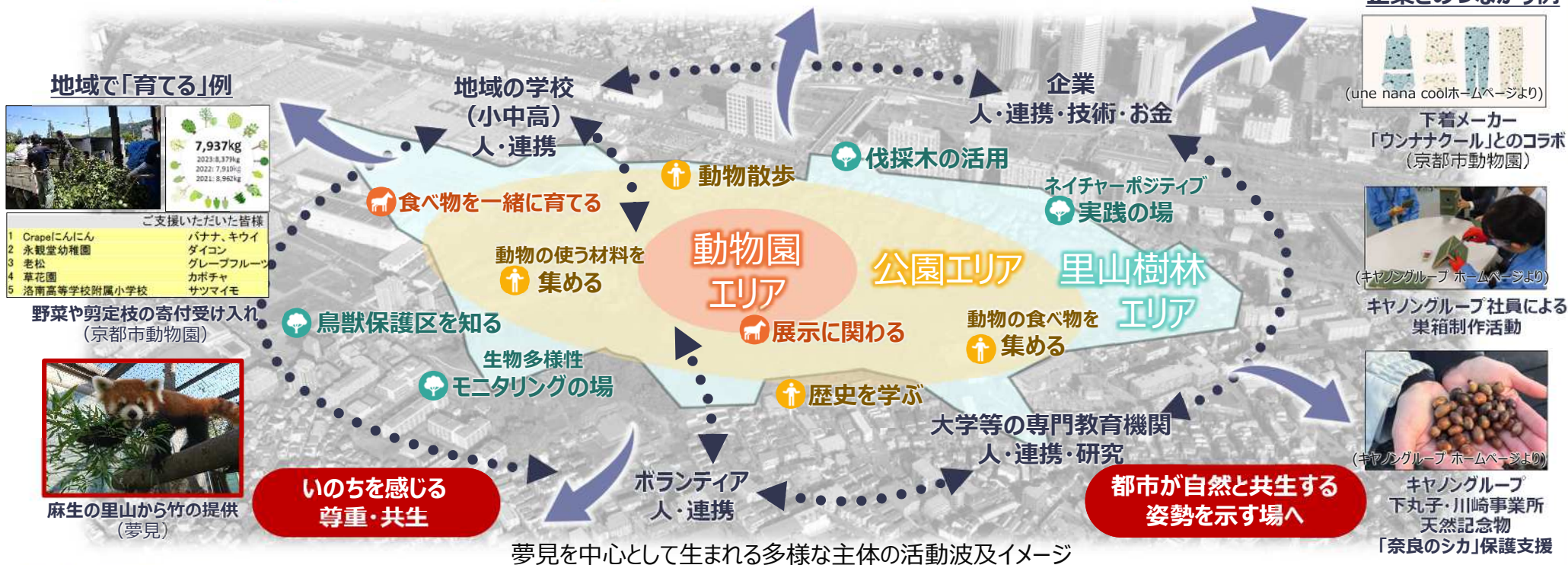
芝生広場 (夢見)



地域への波及イメージ

再整備で強化する「いのちを感じる」しかけが、夢見から地域を巡り、**多様な主体とそれぞれの資源・得意分野で育ち、良い効果が波及していくことを目指します**。再整備にあたっては、協賛や技術提供、実験的な取組を通じて、地域とのつながりを深め、広げながら**市民・企業・大学と共に新しい夢見を育てていきます**。また、**環境や社会貢献のメッセージを発信する場**として機能し、**都市が自然と共生する姿勢を示す場**として**地域や来園者に新しい価値を提供**します。

🌳 里山との関わり    🙋 来園者との関わり・来園者の体験    🐕 飼育との関わり



地域とのつながり例

※赤枠：既に夢見で取組が始まっています。



動物公園内の循環の例



